

宮城県助産師会だより



～巻頭言～

宮城県産後ケア事業の集合契約スタート！

代表理事(会長) 塩野悦子



日頃より会員の皆様には宮城県助産師会活動へのご協力・ご支援を賜り心より感謝申し上げます。
令和6年5月17日に日本助産師会第97回通常総会が東京(一橋講堂)で開催されました。そこで話題になったのは出産の保険適用に向けた動きや少子化による助産所の経営困難、嘱託医問題、伴走型支援への助産師の活用などでした。日本助産師会としては助産所で出産する女性の不利益にならないよう保険化を働きかけるとのことでしたが、まだ議論はこれからようです。出産の見える化のウェブサイトも公表されますので、それに備えて助産所の高い安全性や質の高いケアの洗練を続け、助産師の活躍がさらに世の中に知れ渡ることが重要になります。また、少子化は加速する一方ですが、次世代を担う子供たちへの包括的性教育やプレコンセプションケアは助産師の大きな役割ならびに使命となります。また5月16日には三部会集會、5月18日には「異次元の少子化社会に必要な助産師とは～助産師活動の多様性を考える～」をテーマとした第80回日本助産師学会が対面で開催され、他県の助産師との交流を大いに楽しみました。

さて、この4月より、宮城県は産後ケア事業の広域化を図るために集合契約を導入し、今年度は県内22市町村が参加し、助産師会(35助産所)、医師会(17医療施設)とそれぞれ契約を交わしています。この仕組みにより、住民票のある自治体の枠を超えて産後ケア事業を利用できるようになります。各市町村の産後ケア事業を検索して実施施設と各類型をぜひご確認ください。なお、宿泊型やデイサービス型においては、人件費や施設運営費がさらに必要であり、県との話し合いが今後も続きます。宮城県の出生率は全国ワーストツーではありますが、全国でも宮城県はこども家庭庁の勤めるこの集合契約へ迅速に動きました。宮城県の子育て支援の一つとして、当会も大いに貢献していきたいと存じます。なお、産後ケア事業実施者は、産後ケア実務助産師研修修了者申請をして認定を受けることを要件としております。申請予定の方は計画的に準備をお願い申し上げます。

宮城県助産師会では会員を大募集中です。仲間を増やして助産師活動のパワーアップを目指しています。ぜひ周りの助産師にお声がけください。電話相談、助産師サロン、思春期健康教育、産後ケア事業、助産所ツアーなどを通じて一緒に楽しく活動していきましょう。

令和6年度 一般社団法人宮城県助産師会通常総会 開催報告

理事(書記) 伊藤朋子

令和6年5月25日(土)に第15回通常総会が、宮城県医師会館で開催されました。対面参加27名出席と委任状98名で、過半数の出席があり、総会は成立しました。オンラインでも24名の参加がありました。

初めてのオンラインと対面のデュアル開催でした。残念ながら、塩野会長が体調不良のため欠席でしたが、武者・本田両理事の進行と、会員皆様のご協力のもと、順調に運営されました。

これまでの定款では、決議権は対面参加の会員のみにあるものでしたが、今総会の定款改定により、オンライン参加でも決議権を有することとなりました。電磁措置としてオンラインでの公告等、時代に即した内容に改定されました。これにより当会の活動もさらに活発になっていくことと思います。

今年度も、いろいろな事業が盛り沢山です。みんなの助産師力を合わせ、さらによきものにしてまいりましょう。



受賞おめでとうございます！ ますますのご活躍を祈念いたします！

日本助産師会会長賞

この度宮城県助産師会よりご推薦をいただき、第97回(公社)日本助産師会通常総会の場において「日本助産師会会長表彰」を賜りましたことを深く感謝申し上げます。

1983年に助産師になり41年経ちました。振り返るとあつという間だったような気がします。病院勤務から開業助産師として仕事をする場所はかわりましたが、母子と関わる仕事に携わっていられることに幸せを感じています。

今後も宮城県助産師会の一員として、微力ではありますができることをしていきたいと思っております。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。(加藤美江子)



加藤美江子

加藤道子

この度は「日本助産師会会長表彰」を賜り心より感謝申し上げます。

看護学校を卒業後、関東方面で看護師・助産師として働いていた自分が、「地域母子保健」をやるなら、絶対に地元で!!と、2000年に地元の宮城(大崎)に戻って来て、開業届を出したものの、右も左も分からず、そんな中「助産師会」の存在はとて心強く、また志を同じくする先輩や仲間がいるということは大変な励みになりました。

それから、もう少しで四半世紀。これからは、地域母子支援に貢献していきたいと思っています。今後ともご指導のほどよろしくお願ひいたします。(加藤道子)

看護の日宮城県知事表彰

この度ははこの様な晴れがましい表彰を頂きありがとうございます。

助産師の資格を、頂いて38年夢中で、働いて参りました。

私は産まれたのは北九州で、育ったのは主に埼玉県です。長く埼玉の総合病院で働いて参りましたが縁あって仙台の地を踏むことになり、右も左もわからないところからたくさん先輩や友人に支えられてここまでやって来れました。

昨今では少子化の波も助産院に大きく影響しておりますが、母子の健やかな暮らしのために産後ケアに力を入れて援助しております。

看護の日の表彰を受けるにあたり、まだまだ若輩者である私には過ぎた賞ではないかと一時は辞退することも考えましたが、昨年還暦を迎え重ねた年と経験を考えますとそろそろ我が身を振り返り、頑張ってきた背中を若い助産師や、看護職の方々、後輩たちに見せていく、後進を育てる立場になったのだと、考えお受けすることに致しました。

今後も自分の役割を全うし、安心安全を心に精進して参ります。

今後ともご指導ご鞭撻の程どうぞよろしくお願い致します。(小野由起子)



小野由起子

委員着任のご挨拶

今年度より安全対策委員を務めさせていただきます、佐藤智子と申します。

助産学校を卒業後、臨床を15年・助産師教育を19年経験し、現在に至っております。

年は取っていますが、謙虚に、そして一生懸命務めさせていただきます。

皆様のお役に立てるよう、頑張ります。どうぞよろしくお願い致します。



安全対策委員
佐藤智子

今年度より会計補佐を務めさせて頂くことになりました近藤素子と申します。

訪問専門で産後ケアやじょさんしサロンに従事させて頂いております。また、とも子助産院でパート勤務もしております。

助産師会の仕事や会計に関してはまだ分からない事ばかりですが、皆様との繋がりを大事にしながら、学んでいければと思っております。

皆様どうぞよろしくお願い致します。



会計補佐
近藤素子

今年度より広報委員を務めさせていただくことになりました、井本優子と申します。

思春期健康教育、自治体やオンラインの産前教室などに携わっております。

委員の仕事は初めてで分からないことばかりですが、ご指導いただきながら務めてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。



広報委員
井本優子

宮城県助産師会通常総会開催にあたり、日本助産師会から贈られた祝辞を掲載いたします

2024年度貴会総会開催にあたって

2024年度一般社団法人宮城県助産師会通常総会を開催されますこと、心よりお祝い申し上げます。また、貴会そして貴会会員皆様方の数々の活動について心より敬意を表します。

日頃より日本助産師会の活動に、ご理解ご協力いただき心より感謝申し上げます。

少子化が加速し、人口が減少傾向にある昨今、2023年末にこども基本法に基づいた「こども大綱」が定められ、そこには分娩費用の全国一律や伴走型支援の拡充、プレコンセプションケアの推進、産後ケアの拡充などが書き込まれました。また、4月からは厚生労働者のサイトにて、分娩取り扱い施設の情報が公開されるなど、大きな動きがみられています。特に、分娩費用の保険適用については今年度に議論の対象となると考えられます。

このような動きから、本年度は、助産師にとって歴史に残る重要な年になると思われまますので、本会としても心して取り組んでまいります。貴会におかれましては、母子とその家族そして女性の健康支援、また、災害対策をはじめとする時代や対象者のニーズに応じた助産師活動の在りかたについて、本会と情報共有し、連携をとり、活動を推進されることを期待しております。

本会は、助産師が生き生きと働くことや支援対象である女性とその家族がより健康に暮らせることを目指し、貴会と協働しながら今年度も活動していきたいと願っています。
貴会のますますのご発展を心より祈念いたします。

2024年4月吉日

公益社団法人日本助産師会
会長 高田昌代

研修開催報告2024年5月25日(土) 教育講演「やさしい助産ケアのための関係づくりと対応」

教育委員 望月翔子

令和6年度一般社団法人宮城県助産師会通常総会 教育講演は、宮城県医師会館を会場に初のハイブリッド開催となりました。

日本助産師会 保健指導部会長 とりこえ訪問看護ステーション管理者 安宅満美子先生より『やさしい助産ケアのための関係づくりと対応』についてご講義をいただきました。

助産師は仕事の内容の9割が話すこと、コミュニケーションと対人関係が大切な職業だと日々痛感しております。特に産や母乳育児支援は対象者のよりプライベートな場所に触れる為、技術も大切ですがまずは関係性の構築、コミュニケーションが大切です。先生が講義の中で「アサーティブコミュニケーション」について、掘り下げて解説して下さった内容が特に印象に残っています。対象者へ何か伝えたい時には主語が『わたし(医療者)』になるように話すことと否定的にならずに聞かされると知り、これは即実践できる内容だと思いました。(例: どうして検診を受けないの? → 検診を受けないのは残念です。)

日々お母さん達と接する中で、どうしても正しい知識・情報を提供しなくてはと思う場面があります。そんな時、対象者が感じている胸の内が置き去りになってはいないか、今一度振り返る必要があることを学びました。当たり前ですが、対象者が抱いた思いや感情はその人のもので、医療者側が否定も肯定もする権利はないからです。正しい知識の前に、その人の気持ちに寄り添えるかがやさしい助産ケアに繋がる鍵なのだと思います。

また、安宅先生が訪問看護ステーション管理者ということもあり、講義では訪問看護についても聞くことが出来ました。近年産後ケアとともに注目を集めている母子対象の訪問看護ですが、産後ケアだけではフォローしきれないケースの増加に伴い利用者数は増えてきているそうです。精神疾患合併妊産婦、社会的ハイリスクを抱えた妊産婦は助産師の力だけではケアしきれない現状にあります。しかし多職種との連携のなかで誰よりも母子のそばにいる助産師が柱となることで、ケアの質が上がることを知ることが出来ました。

講義中、安宅先生が助産師の可能性について話して下さいました。助産師の仕事は「ゆりかごから墓場まで」とはよく耳にしますが、ネットや一般の方の声を聞くと浸透しきっていないようです。あらゆる社会問題に切り込み、解決に導くには助産師の存在は必須です。講義を聞き、私たちについて知ってもらう活動も必要であると改めて学びました。



安宅満美子先生



第1部では、山本助産院 院長、前日本助産師会会長 山本詩子先生にご講義頂きました。研修冒頭では、「尊厳ある出産」について女性も赤ちゃんも尊重されること、お産も育児も幸せで楽しいことと語られ、対面から生じる専門職は絶えず倫理的でなければならないという今回の研修を受ける目的を示されました。倫理を学ぶ上での、「何故？」の答えがあったように感じました。

助産倫理とは、「助産師としての適切なふるまい」であり「対象者や共に働く医療チームのメンバー・社会に対して、助産師として行為をする際に行為の選択に関わる行動規範・意思決定」であると学びました。助産師としての適切なふるまいで迷った時、何かジレンマを感じた時は声に出し、チームメンバーと話し合うカンファレンスの大切さを改めて理解しました。そこで大事なのは、(立場や見える方向で違う見え方をする東大寺のお坊さんのたとえ話から)妊婦の様子によってスタッフの捉え方が変わる時は、捉え方を変えるステップを踏むトレーニングをすることで、多様性を受容した支援に繋げていけることがわかりました。

先生の倫理観の礎には「道徳」があり「ナイチンゲール誓詞」があり、「正しいことは何か」方向性を修正されてきたそうです。人は思っている方向に進んでいく、見てる方向が正しければ間違わないで生きていけるという言葉が深く胸に刻まれました。



山本詩子先生

CLoMiP®レベルⅢ必須研修 「臨床病態生理」

出張専門助産師 佐藤由美子



小寺由理先生

第2部では、胎児発育不全や妊娠高血圧症候群など、年々変わりゆく最新の情報について小寺由理先生より学ぶことができました。現場を離れて地域で活動していても、やはりブラッシュアップしていく必要があると感じます。

今回の研修会では助産師の立場で関わりときの必要な事なども織り交ぜてとてもわかりやすい研修会でした。妊娠中のママ、産後のママに関わる時、入院中の状況を知っておくことはとても必要なことです。また看護職として行うこと、他職種との連携や情報共有の大切さについても感じました。私ができることは何かと考える機会となりました。退院後に向けたフォロー教育についても認識しながら関わっていきたいと思いました。

令和6年度 みやぎ助産師マップ掲載基準について

みやぎ助産師マップ連絡係 阿部美喜

新型コロナの影響も最近では感じられなくなりましたね。観光地を訪れると、円安で外国人観光客の多さに驚くばかりです。この度、2024年度の「みやぎ開業助産師マップ」が仕上がりました。新たに1か所の助産院が掲載され、26か所の助産院がマップを飾っております。

今年度は、宮城県内の産後ケア事業が拡大し、当会では集合契約という形で助産師が産後家庭をサポートします。残念ながらいまだに「産後ケア」を知らない方もおります。少しでも多くの産後家庭が利用しやすくなるよう、また周知できるよう助産師マップがその一助になるのではないかと考えております。

なお、新しいマップは、6月中に順次お届けしてまいります。新型コロナウイルス感染症も第5類に変更になりましたが、まだまだ感染に対する不安も拭えない中、妊娠、出産、育児をされる妊産婦さん達が安心して過ごせますよう、今後も温かいお声がけと配布のご協力をお願いいたします。ただけですと幸いです。「みやぎ助産師マップ」の掲載には、掲載基準を満たしている事が必要となります。今後、マップ掲載を希望される方は、下記の基準を満たしているかご確認ください。

今年度から基準が元に戻りました。

【掲載対象】助産所部会、保健指導部会で開業している方

【掲載基準】

- ①宮城県助産師会会員である
 - ②会費の滞納がない
 - ③賠償責任保険に加入している
 - ④1年間(令和6年4月～翌年3月)で宮城県助産師会事業に2回以上参加している
 - ⑤1年間(令和6年4月～翌年3月)で宮城県助産師会の研修会に2回以上参加している
- ※基本、宮城県助産師会主催の研修会参加とするが、アドバンス助産師更新の基準に該当する研修会の参加も可とする ⑥令和6年度4月以前に開業している

【新規掲載希望の方】

- 新規開業助産師の方は次の2点を追加(開業初年度は掲載できません)
- 宮城県助産師会通常総会に出席又は理事会・委員会に出席して自己紹介を行う
 - 宮城県助産師会だよりに研修会報告とともに、助産院紹介記事を書く

配布用マップが必要な方は、マップ担当の山口(miyajo-k.yamaguchi@outlook.jp)までご連絡下さい。

仙台市委託事業 産後ケア事業(訪問型) 実施報告

産後ケアハウスママの家 菊地雅子

宮城県助産師会が仙台市の産後ケア事業(訪問型)の委託を受け2年目となり、登録助産師も現在は14名まで増えました。

12カ月未満までが対象となるため幅広い知識とケアの質向上のため事例検討会や研修を行いながら共に活動しております。

産後ケア事業も周知され、また、児の成長とともに変化する悩みや疑問の相談相手として助産師を身近に感じ継続利用される方が増え、実績数は開始時より1.5倍増えました。さらに、最近では、夫の育児参加意識の高まりから夫婦で産後ケアを希望するなど時代のニーズに合わせて産後ケアも変化しています。

今年度から産後ケア事業は宮城県の集合契約が始まりました。これにより広域連携が取れるため、近隣の市町村の産後ケアを受けることができます。産後ケア施設まで行きにくい遠方の方、多胎の方、県内に里帰り中の方など誰もが平等に利用できるようになります。

また、宿泊・ディサービスと訪問のケアの役割もそれぞれであり、訪問型は普段の生活の場で産後ケアを行うことで楽に、楽しく子育てを続けられる方法をママと一緒に考えていきます。

今後、県内隅々まで産後ケアが行き届くように県内の助産師とともに活動していきます。

石巻市委託事業「親になるための教育事業」

今年度も石巻市の中学校13校(全14回)の授業を実施予定です。
この事業は①助産師から45分の講義を聞いた後に

- ②妊婦体験ジャケットを着用
- ③赤ちゃん人形で抱っここの仕方を練習
- ④「NPO法人ベビースマイル石巻」の協力で集まった

ママと赤ちゃんや幼児と実際にふれあうという流れで構成する体験学習です。

昨年から、事前アンケートを実施し、それに応える内容が生徒さんたちにとっても好評でした。
45分という短い時間に思春期のこころ/恋愛について/多様性に関する啓発/助産師の仕事というテーマを盛り込みます。

講義は今年から講師が2人増えて8人で担い、体験は石巻市の助産師を多く配置し、延べ41人が担当します。参加生徒さんは約900人の予定です。

昨年度の様子



仙台市委託事業「思春期保健事業」

本事業は、昨年までは中学校が対象でした。今年度からは小学校も対象となり、小中併せて48校のご依頼をいただいております。
担当助産師の配置が決定し、思春期教育事業にかかわる助産師の活躍の場が格段に増えました。内容は学校ごとに希望が異なるため、丁寧な事前打ち合わせが必要になります。

保健指導部会に所属している助産師が担当することが多いのですが、勤務助産師の皆さんの参加も大歓迎です。講師それぞれ個性的な講演になると思います。まずは見学からはじめてみませんか？いろいろな方の授業を聞くことでとても勉強になると思います。

ホームページに掲載します。ご覧ください。(宮城県助産師会HPは、右記QRコードから⇒⇒⇒⇒⇒)



宮城県・仙台市委託事業「助産師による妊産婦電話相談」

柴崎莉奈

宮城県内の妊産婦を対象とし、令和2年度より開始した電話相談事業が5年目に突入しました。令和5年度の概要を報告いたします。
初年度113件だった相談件数も、令和4年度は440件、令和5年度は433件と400件台を推移しています。うち1割ほどが複数回利用されている方です。

相談者の内訳としては30代が最も多く、全体の約7割を占めます。初産経産の割合を見ると、初産の相談者が約8割を占めます。利用者の約56%が仙台市在住で、令和5年度は245件の利用がありました。一方、県北地域など年間10件に満たない地域も多い現状があります。

褥婦からの相談は産後4か月までが半数以上を占めます。この時期は授乳や、母親の疲労感などの相談が多い印象です。以降の月齢に関して、相談件数は減少しますが、依然として母親の疲労に関連した相談は多く、離乳食に関する相談や、復職や保育園入園に伴い断乳を希望する相談もある印象です。

授乳中の復職、夫が育児休暇を取ることによる育児行動の分担、祖父母の支援なしで産後生活される方からの相談など、相談内容に生活様式や社会構造の変化を感じる側面もあります。

私自身まだまだ勉強中の身で、分娩を終え退院された方の生の声を聞くことができ大変ありがたく思っています。

匿名での相談事業の為、傾聴と情報提供に終わることがほとんどですが、必死で頑張っている妊産婦の皆さんの一助となることができればと思っております。

仙台市委託事業 令和6年度「せんだい助産師サロン」

出張専門助産院♪アンダンテ 根本靖子

仙台市委託事業「せんだい助産師サロン」は、仙台市内各区にある「のびすく」にて、ママ同士の交流や助産師の育児相談を目的に始動し、今年で7年目を迎えます。昨年度は対面サロンとオンライン併せて87回427組の母子にご参加いただきました。今年度は更に受け入れ人数や開催回数が増え、全96回(対面94回・オンライン2回)の開催が予定されています。生後2カ月から6か月未満の母子6~8組/回を対象とし、2名の助産師が従事しています。現在9名の助産師が講師を担当しています。

参加者からは赤ちゃんとの過ごし方、遊び方、睡眠、離乳食、お出かけ先などの質問が多く、助産師がファシリテーターとして母親同士の交流を図りながらアドバイスするよう努めています。また子育て支援施設や産後ケア事業など産後に役立つ情報提供の場にもなっています。

オンラインサロンは対面サロン参加と重複して申込可能です。会員の皆様には対象となる母子へのお声がけを引き続きどうぞよろしくお願いいたします。



今後の研修会予定・お知らせ

令和6年度宮城県助産師人材育成・復職支援事業
「助産所見学ツアー&みやぎじょさんしトーク」を企画いたしました。
研修会チラシを同封しておりますので、ご確認ください。

*11月16日(土)と2月15日(土)の研修は詳細が決定次第、会員の皆様
には、ご登録のメールアドレスへご連絡いたします。

【研修に関するお問い合わせ】

宮城県助産師会教育委員 k@midwife-miyagi.net

じょさんしフェスタ inみやぎ2024について

今年のじょさんしフェスタは10/27(日)に利府イオン南館の会場をお借
りすることができ、先日下見に行ってきました。

利府イオン南館は土日にお買い物に来るお客さんが4万人くらいだそう
です。助産師に注目が集まるようなワクワクと楽しく、ためになるイベント
を企画しましょう。

当日出席できるように今からスケジューリングをお願いします。みんな
で県民の皆様におもてなしましょう。



マミーズマガジン「ぷくり」に右記
のように掲載中です。

無料

2024 利府イオン 宮城県 助産師会

イベント 盛り沢山

2024.10.27 sun 10:00~15:00

「ぷくり・秋登」でもっと詳しく紹介するよ!!

お問い合わせ
宮城県助産師会
☎090-2273-3834
✉miyagisanba@gmail.com

場所 利府イオン 南館

内容

- ・赤ちゃんの沐浴/オムツ・着替え体験
- ・赤ちゃん抱っこ相談
- ・赤ちゃん体重測定と育児相談
- ・助産師による健康相談(骨密度・血圧測定)
- ・その他、楽しいイベント盛り沢山!!

じょさんしフェスタって?
マママ・ベビママのために助産師が企画したイベントが開催されます!赤ちゃんのための知識や情報をあなたも学びに来ませんか?

「周産期福祉避難所開設訓練」「安否確認訓練(災害に対応する訓練)」 災害対策委員 戸田恭子・佐藤由美子

周産期福祉避難所開設訓練

仙台市は、平成28年4月に災害時の妊産褥婦とその家族の支援のために仙台市内の看護系学校6校と東北大学病院、宮城県助産師会とで「周産期福祉避難所運営に関する協定」を結びました。看護系学校は避難所開設施設とし、東北大学病院はハイリスク妊産婦・新生児の受け入れ施設または受け入れ医療機関の調整を行い、当助産師会は依頼を受けて周産期福祉避難所へ助産師の派遣をします。

当会では協定に基づき「周産期福祉避難所支援マニュアル」を作成し、随時更新するとともに災害派遣助産師を常時募集しています。

当会の主旨に是非ともご賛同いただき災害派遣助産師の登録にご協力をお願いします。

災害派遣助産師登録QRコード



2024年6月27日仙台市との開設訓練予定

【編集後記】

広報委員 新沼映子 井本優子 根本靖子

今年も半年が過ぎ、様々な事業が順次スタートしております。活動の詳細は、当会HPやSNSもご確認ください。会員の皆様のご協力により当会の活動は成り立っております。お忙しい中、記事のご協力をいただきました皆様に感謝申し上げます。ありがとうございます。

当会主催の研修会ご案内は、kmiyagijyosannsi@gmail.com より配信しております。4月以降一度も連絡がない方は、上記アドレスまでご連絡をお願い致します。迷惑メールフォルダなどをご確認ください。

安否確認訓練(災害に対応する訓練)

◎令和6年度の安否確認訓練(災害に対応する訓練)は、日時を定めず実施します。会員の皆さまは訓練日時に、リーダーまたはサブリーダーからのトップダウン方式により安否を3日以内に連絡してください。ご協力よろしくお願いいたします。

◎昨年まで機関紙と共にお送りしておりました、「災害連絡網(安否確認グループ名簿)」は、宮城県助産師会ホームページより、各自ご確認ください。個人情報の取り扱いに十分ご注意ください。

一般社団法人宮城県助産師会

〒981-8522 宮城県仙台市青葉区
国見1-8-1
東北福祉大学
健康科学部保健看護学科 気付

電子メール: miyagisanba@gmail.com